

2014年度入試の問題分析

① 出題傾向

全日程・全学部とも全問マークセンス方式。長文問題、短文空所補充問題(文法・語彙)、語句整序、会話文、図表やグラフを用いた問題など、さまざまな角度から英語力を試す問題である。

② 出題形式と難易度(全学部共通)

・Ⅰ 長文総合問題

1 ページ程度(30行前後)の長文問題が出題されている。本文中の語句と同じ意味の語句を選択する問題に加えて、段落を指定した英問英答形式または英文完成形式の内容一致問題が出題されている。タイトル選択問題が出題されることもある。英文は標準的で読みやすく、素直な設問が多い。

・Ⅱ 短文空所補充(文法・語彙四択)

標準的な語彙・文法の知識があれば確実に得点できる。熟語・イディオム、語彙問題(単語の意味)や 時制、仮定法、接続詞、関係詞、動詞の語法、前置詞、代名詞、準動詞(不定詞・分詞・動名詞)などさまざまな文法事項が問われている。

・Ⅲ 語句整序

与えられた語句を並べ換えて英文を完成する問題。完成した英文に対応する日本語は与えられている。

・Ⅳ 会話文空所補充

会話の流れを正しく理解していれば得点できる問題であるが、英語圏で実際にありそうな自然な英語での会話に慣れていないと、それぞれの対話の場面や人間関係を把握することが難しい場合も考えられる。

・Ⅴ 図表やグラフ、広告、記事などを使った問題

与えられた図表やグラフ、文字情報に紛らわしいものは見られない。書かれている事実や数値を読み取るものや、簡単な計算を必要とするものもあり、問題形式には十分に慣れておく必要がある。

③ 公募制推薦入試(全学部共通)

一般入試と比べて少しやさしめの問題が多い。問題形式は一般入試と同一であり、長文総合問題、短文空所補充(文法・語彙四択)、語句整序、会話文空所補充、広告や図表の読み取りが出題されている。

学習アドバイス

① 一般入試の学習対策

- ・Ⅰ の長文問題の対策としては、日頃の長文読解演習の際に、文章全体のテーマを意識し、それぞれのパラグラフの要旨を明確にしながら読むことを心掛けたい。語彙に関しては、日頃から動詞、名詞、形容詞、イディオムなどの類義語(句)を調べ、メモをしておく努力が求められる。
- ・Ⅱ の文法四択問題や、Ⅲ の語句整序問題では、時制、態、助動詞、仮定法、準動詞(不定詞・分詞・動名詞)、イディオムなど、動詞に関連する頻出事項のマスターが最優先となる。接続詞、関係詞や比較、前置詞、代名詞の出題も多い。英文法では、それぞれの分野を一つずつ集中的に学習し、2～3回は反復するのが効果的である。
- ・Ⅳ の会話文空所補充問題では、過去の入試問題を解いて、間違えた部分については、なぜ間違えたのかを必ずチェックする。特に、空所に続く英文の意味を確認して、自然な文脈かどうかを判断する習慣をつけるとよい。英語圏で実際にありそうな自然な英語での会話の場面に慣れておくことも必要である。
- ・Ⅴ の図表やグラフ、広告、記事などを使った問題では、過去の入試問題を解いて、書かれている事実を問う問題だけでなく、数値情報を処理するような問題形式に慣れておく必要がある。
- ・学部ごとに特別な対策をする必要はない。得点力アップを目指すなら、過去に出題された問題や大学入試センター試験の類題を十分に利用して、語彙力の強化と演習量の確保に努めることである。

② 公募制推薦入試の学習対策

基本的には一般入試と同じである。文法や熟語・イディオムの地道な学習を行うだけでなく、できるだけ多くの英文に触れ、その英文の中で語彙の確認を行うという学習を積み重ねることが、実戦での得点力アップにつながる。過去に出題された問題を解いて、早い時期に自分の弱点を知って対策を行うことが合格につながる。